

## 学位論文概要「環境情報からのメッセージ」(環境イノベーションマネジメント専攻)

| 名前   | 指導教員   | 論題   | 論文要約  |
|------|--------|--|---|
| 岡田真作 | 安藤孝敏   | 成人の学習者において他者との関わりが学習動機づけに与える効果<br>— 街にある語学教室を対象として — | 本研究は、街にある語学教室に通う高齢者を含む成人学習者を対象として、学習動機づけ向上の工夫のひとつである、「他者との関わりが学習動機づけに与える効果」について考察したものである。対象の成人学習者にインタビュー調査を行い、SCAT 分析で抽出した構成概念を整理し、学習者タイプ、学習期の観点から「他者との関わりが学習動機づけに与える効果」について仮説を構築した。  |
| 居 然  | 安本雅典   | ビジネス・エコシステムの生成と拡大—セットの視点から—                          | Recently, enterprise groups composed of a number of companies have been gathering people's attention as the relationship between them is becoming more complicated and closer than ever. Business ecosystem appeared to be the key concept to catch up with this kind of change. In a business ecosystem, the players cooperate with each other to create a higher value. The purpose of this research is to clarify the main factors to enlarge the business ecosystem from the view of dependence relationship between the players.   |
| 袁 語彤 | 志田 基与師 | 現代中国における「80 後」の「裸婚」に関する考察                            | The aim of this research is to determine the facts which influence the attitude of "the generation after 80s" toward naked marriage. According to data survey, it could be concluded that attitude toward social norms, pressure from people around and about pressure of their life, economy strength and special reason as the facts influence the attitude of "the generation after 80s "towards naked marriage. Combining these facts and made some assumption. Conducted of questionnaire survey based on the assumptions and carried it on in the internet. Then analyzed the result of the survey. |
| 川角さえ | 安藤孝敏   | 保育現場における動物飼育の実態と保育者の関わりについて                          | 本研究では飼育動物との関わり場面の観察と保育者への聞き取り調査を行い、その結果子どもは飼育動物への呼びかけが多く、保育者は世話に関する発話が多く見られた。また、子どもが飼育動物に不適切な関わりをしている際に、保育者は飼育動物の気持ちを代弁し、子どもが動物の立場に立って考えられるような言葉かけを繰り返し行っていた。こうした保育者の日々の関わりや姿勢が、飼育経験効果として期待される思いやりや優しさの育ちを促していると考えられる。  |

|          |        |   |   |
|----------|--------|---|---|
| 乗松義弥     | 本藤祐樹   | <p>特殊な財の影響を考慮した地熱発電の温室効果ガス排出分析</p> <p>-再生可能エネルギー部門 拡張産業連関表の活用-</p>  | <p>本研究の目的は、産業連関表を用いて国内における地熱発電のライフサイクル GHG 排出量及びエネルギー消費量を明らかにすることである。本研究では、地熱発電関連部門を新設した拡張産業連関表を作成し、さらに、地熱井セメントなど特殊な財の価格の歪みを解消することで、より詳細かつ実態に即した推計を実施した。結果として、50WM フラッシュ地熱発電のライフサイクル GHG 排出量及びエネルギー消費量は、それぞれ 21 g-CO2/kWh、0.23 MJ/kWh となった。</p> |
| 山下達也     | 本藤祐樹   | <p>社会経済的価値に着目した小水力発電事業の実施に伴う効果分析</p>                                | <p>本研究では、我が国における小水力発電事業の実施によって生じる様々な社会経済効果を明らかにし、今後の普及に向けた示唆を得ることを目的としている。第一に、事業者を対象に質問票調査を行った結果、売電収入や雇用創出の効果に対する期待は、事業者が固定価格買取制度の認定を受けているか否かに依存して異なることが明らかになった。第二に、事業者から入手したデータと産業連関表を用いて雇用創出効果を検討したところ、1.8人・年/GWhの雇用が生み出されると推計された。</p>        |
| イェリア ノール | 志田 基与師 | <p>日本で研修したインドネシア人の実態と問題点の考察</p> <p>-西スマトラ人の経験からの事例-</p>             | <p>日本の香川県から帰国した西スマトラ農業技能実習生たちは現在どのように生活をしているのか。彼らの帰国後の生活実態は技能実習生の経験とどのようにつながっているのか。農業技能実習生として学んだ知識や経験はどのように活かされているのか。それらを踏まえながら、問題点を改善するにはどうすればいいかを検討している。</p>  |
| 乌兰       | 鳴海大典   | <p>農山村地域の持続可能性に関する研究-居住環境評価と人口動態推計から-</p>                           | <p>日本の農山村地域は、高齢・過疎化と産業衰退に伴う生活環境の悪化が顕在化しており、農山村地域を支える高齢者の多くが平均寿命を迎えるこの先 10 年間は地域の存亡をかける転換期にあたる。そこで本研究では、今後の農山村地域における「まちづくり政策」を検討していくための基礎資料整備を目的として、農山村地域の生活環境（地域・居住環境）の満足度、他出子の動向などを調査するとともに、農山村地域の人口動態や将来人口を予測し、各地区の地域特性を明らかにする。</p>           |
| 喬 毅      | 竹田 陽子  | <p>グローバル経営を展開する物流企業における知識移転の手法</p> <p>-ヤマトと佐川の中国（上海）進出の事例と比較研究-</p> | <p>本研究では、日本の物流業界を先駆した佐川ホールディングス及びヤマトホールディングスがグローバル戦略における中国市場進出の事例を取り上げ、日本の物流企業が現地（上海）で展開するグローバル経営の特徴、ポスト国と現地間の双方向の知識移転にどのように影響したのかを明らかにした。</p>  |

|      |      |   |   |
|------|------|---|---|
| 朱 佳楓 | 安本雅典 | 知識分散型の製品開発のマネジメント：Android スマートフォンの製品開発の事例分析 | 企業が製品開発の最も重要な知識を保有することは、製品開発のなかでの一連の意志決定に影響を与えて、企業間分業における製品開発のパフォーマンスに貢献できると思われる。自動車産業に比べ、現代の ICT 産業では、製品開発の最も重要な知識が企業の外部に分散していることが特徴である。このように知識が分散しているという状況のなかで、企業は如何にして最も必要な知識を獲得して、製品開発のパフォーマンスを向上するのか、という課題の解明を本研究の目的とする。 |
| 李甄澤  | 安本雅典 | オープン・イノベーションにおけるアウトバウンド知財戦略に関する研究           | オープン化が進んでいるとともに、産業構造も変貌しつつある。企業は競争優位を維持するため、技術を外部に提供し、他の人に使ってもらうことにより収益を獲得するアウトバウンド知財戦略を採用している。本研究は特許のアウトバウンドをメインにして検討し、アウトバウンドできる会社の必須条件をまとめ、この戦略を採用する代表的な企業を他の会社と比較しながらアウトバウンドはできる理由と結果を明らかにする。                             |
| 劉 敏愉 | 竹田陽子 | 北九州地域の製造業における 3 次元情報技術の普及に関する研究             | 1980 年代の末に登場した新世代 3 次元 CAD を中心とした 3 次元情報技術群は製品のパフォーマンスを向上させ、全国に普及が進んだが、いまだに業種や地域による普及率の差は大きい。本研究では古くからの工業地帯にもかかわらず、3 次元情報技術の利用率が低い北九州地域をとりあげ、新技術の普及過程を左右する要因やメカニズムについて、新たな視点を発見することを目的とする。                                    |